

# 『医学館方案』

町 泉寿郎

二松学舎大学

## 解 題

筆者はかつて本誌59巻1号(2013.3)に「江戸医学館の臨床教育」という論文を発表したことがある。その時に基本資料として用いた一次資料をここに翻刻して紹介しよう。

江戸医学館における臨床実習の際に作成された処方記録はその殆どが散逸したらしく、管見の限りでは武田科学振興財団杏雨書屋に所蔵される『医学館方案』(藤浪剛一旧蔵, 請求記号: 乾2947)が伝存する唯一の記録である。表紙を入れてわずか30丁(うち白紙3丁)の薄冊である。

書型, 高24.3糎×幅17.0糎。題簽(高17.4糎×幅3.0糎)に「医学館医案」と墨書し, ペンで「医」を抹し, 右傍に小さく「方」と書き添えている。原表紙には左寄りに「方案 卯 七月/八月/九月」と墨書し, 右下に印「藤浪氏蔵」が捺される。

本文中の年次表記は干支のみで記され, 元号等は記されていない。ただ本文中に「閏九月」の日付があることから, 年代が特定できる。卯年に閏九月が置かれているのは, 医学館の創設年(1765)から閉鎖年(1868)の間に, 明和四年(1767)と天保14年(1843)の二回であり, かつ小川沓庵(1782~1847, 龍仙院)・多紀元堅(1795~1857, 楽真院)等の幕末の医官の名が見えることから, 天保十四年(1843)と同定できる。

原表紙に「方案 卯 七月八月九月」と記すが, 内容を見ていくと, 卯年の三月十八日から九月十三日までに医学館で初診を受けた患者の診察・投剤の記録である。現状の装釘には錯簡があり, それを勘案して内容を整理すると, 十四人分の診療記録である。収録されている受診者十四人の初診

日は同年三月十八日から九月十三日までであり, うち八人は三月から六月までの初診受診者であるから, 表紙の文字に「七月 八月 九月」とあることとはやや齟齬するごとくである。

記録の下限は⑥かね・⑦惣兵衛・⑩三五郎が除籍となった弘化二年(1845)六月二十三日である。資料の状態は良好とは言えず, 錯簡もあり, 十四例中記録が完全に保存されていると見られるのは四例にとどまり, 記録の多くに欠落があることから, 残っていた分だけの記録を取りあえず保存したものかと思われる。

以下の翻印では, 原本の現状のままに翻印するのではなく, 患者の受診日時の早い順に, 受信日時が同時のものは除籍日時の早い順に, 再編して示した。但し, 底本の現状を示すために, 改丁箇所原本の丁付けを記した。

## 【翻 刻】

(表紙) 方案 卯 七月 八月 九月

①卯三月十八日 九拾九

神田鎌倉横町 家主安右衛門店 五兵衛 四十九  
診視 俊哲 道玄 介雲嶺

懈怠ニ付除之。 巳二月十八日 理庵記  
一昨年六月, 龜頭江小瘡相發, 痛癢有之, 稀汁出  
難儀仕候ニ付, 種々手當仕, 一ヶ月余ニ而追々愈  
申候處, 七月下旬より両脚筋攣仕, 屈伸不自由ニ  
而行歩艱難ニ相成候ニ付, 服薬, 快方ニ相成候。

昨年六月内股江1a腫物相發, 不絶疼痛有之候處,  
十一月ニ至り, 潰膿仕, 日々膿汁出, 此節漸々愈

申候様子ニ御坐候得共、瘡口未収斂不仕、稀膿少々ツ、出申候。當正月頃より兩脛時々疼痛相發、其上逆上、不絶頭痛耳鳴仕候。食餌如素、大便日々快通、小便短少ニ御坐候。○一昨年三月不斗顛仆仕、頭頂之邊打撲仕、日々頭痛仕候ニ付、療治仕、弐ヶ月余ニ而全快仕候。

一 当婦地黄湯 アホース膏止 鹿倉以伯 1b]

右五兵衛儀、自若。 卯五月三日 弁庵志  
 右五兵衛儀、自若。 卯六月八日 雲禎識  
 右五兵衛儀、少々快和。 卯七月八日 雲禎識  
 右五兵衛儀、自若之内、少々快方。  
 卯八月八日 実庵記  
 右同断。 卯九月三日 隆道誌  
 右五兵衛儀頭痛耳鳴難儀ニ付、俊哲老へ談之上、轉方。

頭風神方 加大黄 卯十月八日 弁庵識 2a]

右五兵衛儀、上部先自若之処、当時兩足脛痛内髁骨上別而痛有之候ニ付、轉。俊哲老診定。

本事思仙續断門料 加乳香

卯十二月三日 玄亮志

右五兵衛儀、旧冬より風邪之処、格別之儀も無之候処、當月十日頃より悪寒強發熱咳嗽、食味一向ニ無之候ニ付、當分之内轉方。

柴桂湯 加杏人 代診元長

辰正月十四日 道玄記

右五兵衛儀、風邪得と快候ニ付、前方江戻し申候。

2b] (以下缺)

②卯三月廿八日 百五十六

神田鍋町東横町 家主市兵衛店

友吉母 くに 五十九

診定 安良 介弁庵

懈怠ニ付除之。 巳四月廿八日 理庵記

一躰、壮実之方ニ御坐候処、十ヶ年以前より左足少々ツ、痛申候処、為差儀ニも無御坐候ニ付、捨置候処、昨年六月頃より足脛麻痺疼痛、冷申候。

種々服薬等仕、疼ハ凌能相成 24a]

申候得共、今以麻痺仕、步行仕候得共、足脛痛難儀仕候。一躰左足而已ニ御坐候処、当時ハ右之足も少々麻痺仕候。食餌、二便自可。出産十度、無別条肥立申候。月経如期来、十ヶ年以前絶止仕候。兎角左足膝以下麻痺強、殊之外冷、難渋仕候。腫氣無御坐候。步行仕候へハ動気仕、呼吸短気仕候。

一 大防風湯 杉浦玄泉 24b]

右くに儀、諸症自若 卯四月八日 雲禎識  
 右くに儀、自若之中、追々快和。

卯五月三日 宗春志

右国儀、麻痺快和之方。 卯六月八日 道玄記

右国儀、惣シテ快和之方。 卯七月八日 宗禎記

右国儀、諸症快和之方。 卯九月三日 雲禎記

右くに儀、惣而先快方御坐候。

卯閏九月八日 玄亮志

右くに儀、惣而快方。 卯十月八日 道玄識

右国儀、先快方御坐候得共、兎角兩足脛瘦削、復兼候ニ付、

前方江加鹿角 龍仙院殿談

卯十一月八日 玄亮志 25a]

右国儀、前症追々快和之処、痔疾ニ而疼痛仕候間、當分之内轉方。 代診玄碩

方考四物湯 卯十二月廿三日 道玄記

右国儀、少々ツ、足脛も肉付候様ニ而、當時痔疾大ニ快候得共、未タ得与不仕候ニ付、先其儘居置

申候。 辰三月八日 玄亮志 25b] (以下缺)

③卯四月廿三日 三十七

本郷春木丁壺丁目 家主源六店 幸次 四十

診定 安良 俊哲

卯八月八日 番外 野間玄琇へ。 道玄記

昨年九月上旬より兩眼腫痛仕、引続手稍足附共微浮疼痛甚、身体江も走注仕、疼痛強、眼胞之腫も増劇仕候ニ付、田村元長療治受候而、当正月中旬ニ至り、14a] 全快之体ニ相成候ニ付、同人薬懈怠

仕居候処、此節ニテハ兩眼又々翳障相發、渋痛仕候。尤二月上旬より湿疥夥敷相發候処、此節湿瘡之方ハ少々減候而、手足共浮腫有之候。兩便食事共平常ニ御坐候。少々疾之気味有之候。是迄格別之瘡患無之候。

一 防風通聖散去大黃芒消 洗葉 黃連解毒湯加

菊花 田村安仙 14b) (以下缺)

右幸次儀、不大便ニ付、本方ニ致し置申候。

卯六月廿三日 道玄記

右幸次儀、容體異状有之旨申出候ニ付、受持安仙へ右之段相達、即刻診察被致候所、兩三日已來中暑ニ而腹痛吐瀉有之候後、微熱有之、胸膈痞悶、食事進兼候ニ付、當分轉方左之通。

香砂六君子湯

卯七月廿七日 雲禎記 4a) (白紙) 4b)

④卯四月廿三日 百弍十四

柳原岩井町代地 太七店

伊兵衛妻 登せ 五十

診視 安良 理庵

全快 巳二月六日 理庵

昨年春中より手足筋攣、氣分鬱塞、時々左脇下痛候ニ付、當御役所へ奉願全快仕候処、二月 26a)

頃より又候前証相發、肩背拘急、手足拘攣、逆上耳鳴仕、物事驚惕致し易く、夜臥多夢ニ御坐候。舌上始終爛候様ニ而、難儀仕候。時々噫氣出申候儀御坐候。食事相應被下候。大便三四日壺行、結鞭難儀仕候。

一 四逆散 加呉茱萸牡蠣 小嶋昌賢 26b) (以下缺)

當分轉方致置申候。 辰七月十二日 理庵記  
右登勢儀、腹痛下利得与快、兎角胸腹痞閉之気味ニ而手足筋攣、平臥鬱塞有之候ニ付、轉方。

大柴胡湯 去大黃 加呉茱萸 安良老談

辰八月八日 玄亮志

右とせ儀、眼気快候ニ付、目洗葉今日より相止之旨、受持申聞候。 辰九月廿日 道玄記

右とせ儀、兩三日外感ニ而微寒熱有之、其上咳嗽出申候ニ付、當分轉方。

小青龍湯 加厚朴杏仁

辰九月廿八日 雲禎記

右とせ儀、外邪快方ニ付、前方江尻申候。

辰十月八日 弁庵志 3a) (白紙) 3b)

⑤卯五月三日 百六十四番

武州葛飾郡今井村 名主重郎兵衛支配

百姓佐左衛門妻 茂登 三十四

診定 安庵 理庵

懈怠ニ付、除。 巳四月十三日 雲禎識

一昨年十月頃怪我仕、鼻柱江疵付候処、痛強余程出血仕候。後兩眼共赤腫仕候而、是又痛強、難儀仕候。前症快和仕候後、于今兎角兩眼痛癢相發、

難儀仕候。當時ハ赤脉<sup>(ママ)</sup>疼痛共 5a) 無御坐候處、

眼眶赤爛仕候而、始終痛癢有之、難儀仕候。逆上等之儀ハ覚不申、食事相應ニ被下候。大便日々通候得共、鞭通之方ニ御坐候。小水自可。○一躰難患無御坐候、痘兒看病仕候後、當時ハ少々小瘡發申候。

一 清上防風湯 洗葉 黃連解毒湯 加菊花

高麗元衡 5b) (以下缺)

⑥卯五月十三日 百六十六

武州足立郡小右衛門新田 名主小右衛門支配

百姓四郎平娘 可祢 七歳

診定 楽真院 安良 介宗春

巳六月廿三日 番外 町谷元誠江 道玄記

生下壯実之方ニ御坐候處、五歳之節より兎角氣分鬱塞仕候哉、物事懶惰ニ相成候處、不出来之節は始終平臥仕候方を好申候。其後少々も快和ニ御坐候処 10a) 一昨年之暮、不斗卒倒仕、筋脉牽引、

手足共屈伸不仕候而、暫時心付不申候處、種々手充仕候而快復仕候。其後引續右様躰度々相發、當時は周時七八度も相發、筋脉拘急、呼吸絶止仕候。

食事可也被下候。大小便自可。

一千金龍胆湯 兼用妙功十一丸 平井由庵 10b」

右可祢儀，自若ニ御坐候。卯六月八日 雲禎識  
右兼儀，卒倒大ニ快方ニ而，御丸薬頂戴仕候と通  
気も宜，且細蟲如髪ものを下し候よしニ御坐候。

卯七月八日 道玄記  
右か祢自若，細蟲少々減候方御坐候。

卯八月八日 実庵記  
右嘉祢儀，当時細蟲も下り不申，卒倒一日ニ兩度  
位ツ、ニ而，暫時ニ醒候。惣而快方御坐候。

閏九月八日 玄亮志  
右兼儀，未タ一日兩度位發申候。

卯十月八日 道玄記  
右兼儀，此節一日ニ卒倒兩三度有之候得共，至而  
薄キ気味合斗事御坐候。惣而同様ニ御坐候。 11a」

卯十一月八日 玄亮志  
右兼儀，卒倒今以一日兩三度御座候得共，薄らき  
候方。

卯十二月三日 理庵記  
右兼儀，卒倒ハ相替り候儀無之，此間中より口舌  
糜爛等有之候ニ付，轉方。尤兼用相止。

玄琢老診 辰二月八日 玄亮志  
涼膈散 兼用柳花散  
右兼儀口舌糜爛快御坐候ニ付，前方龍胆湯江復申  
候。兼用も同断。

辰二月廿八日 理庵記 11b」

右兼儀，卒倒日々相発候得共，薄らき候方ニ付，  
兼用丸薬見斗相用候様，受持江申談置候。

辰三月八日 理庵記  
右かね儀，卒倒も間遠ニ相成，諸症先順快之方ニ  
御坐候。

辰六月八日 雲禎識  
右兼儀，当四月中旬より五六十日之程，卒倒相止，  
気分快様子，言語も相分り，惣快方處，又々暑気  
強ニ疲労致し候哉，夫より又候一昼夜兩度，或發  
不申事も有之候。先大キ薄キ候方御坐候。

辰七月八日 玄亮志 12a」

右可祢儀，諸症大ニ快，当日ニ相成候而ハ卒倒ハ  
別而程遠ニ相成申候。 辰十月八日 理庵記

右可祢儀，先月下句より又々夜分卒倒之儀，不相  
発ニ付，其佞居置候。 巳二月八日 理庵記  
右兼儀，兎角同様之内，前方餘り永く相成候ニ付，  
轉方。

抑肝散 玄琢診 巳四月八日 道玄記  
右かね儀，自若之内，卒倒程遠ニ御坐候。

巳六月八日 宗洪志 12b」

(白紙) 13a」(白紙) 13b」

⑦卯六月十三日 百九十二

下総国葛飾郡市川村 名主治郎左衛門支配百姓  
惣兵衛 三十一

診視 安良 理庵

巳六月廿三日 鹿倉以伯へ 番外 道玄記  
九年已前，下疳相患，陰莖江疵出来仕候ニ付，粉  
剂相用，三ヶ月程ニ而愈申候。其後二年程相立，  
鼻中窒塞仕候ニ付，嗅葉ニ而是又愈申候。一昨年  
四月頃より左之方肩端より臂脇掛ヶ疼痛仕候ニ  
付 28a」温泉ニ浴し候處，右痛少々ハ和らき候様  
ニ御坐候も，右足膝頭疼痛，屈伸仕兼候。尤歩行  
ニハ格別障り不申候。當時ハ腰髓より髀骨之邊  
迄，右足疼痛仕，気分鬱塞仕候。食事可也被下候。  
大便日々通御坐候得共，結鞭快通不仕候。小便自  
可。○折節寒熱盜汗出候儀御坐候。一昨年より昨  
年迄時々下血仕候處，當時ハ相止ミ申候。

28b」

一 搜風解毒湯 加大黄 町谷元誠

右惣兵衛儀，兩三日口中少々腐爛仕候ニ付，当分  
之内，柳花散兼用致置候。

卯七月十八日 玄亮志  
右惣兵衛，諸症自若，口中腐爛快候ニ付，柳花一  
相止申候。 卯八月八日 弁庵志

右惣兵衛，少々快和之方。

卯閏九月八日 雲禎識  
右惣兵衛儀，同断。 卯十一月八日 宗禎記  
右惣兵衛儀，諸症遂々順快。

辰二月八日 雲禎識 29a]

右惣兵衛儀、順快、辰三月八日 弁庵志  
右惣兵衛儀、強半快気御坐候。

辰六月八日 玄亮志

右惣兵衛儀、諸症遂々快和。

巳四月八日 雲禎識 29b]

⑧卯六月十八日 二十五

小石川白山竹町 喜八店 平吉妻 屋伊 五拾老  
診視 安良 玄亮

卯八月廿三日 懈怠除 道玄記

四拾老歳、産後之節より右眼倒睫拳毛ニ而痛痒膈

涙 18a] 出、頭痛目眩強御坐候処、五年以前、左

眼烏珠に腫物出来膿汁出、半年程ニ而愈候砌より  
右頭痛目眩は薄キ候方御坐候得共、両眼雲翳ヲ生  
シ朦朧仕、不絶隠渋難開、右眼別而不出来ニ御坐

候。18b] 食餌、兩便如平。産乳七度、孰も平易ニ  
肥立申候。經事如期来候處、四十九歳之節、絶止  
仕候。○四五年以前、湿疥相患候外、瘡患無之。

19a]

一 決明子散 兼用 家方辰砂膏 伊達岱庵 19b]

⑨卯七月三日 式十三

武州葛飾郡東葛西領小岩村 長右衛門支配

百姓七十郎妻 婦美 式拾八

診定 安良 俊哲 道玄

辰三月十八日 懈怠ニ付除之。 雲禎識

一昨年秋より紅潮不順ニ御坐候處、昨年三月頃より  
少腹痛相發、脇肋心下等も疼痛仕、気分鬱閉  
[破損] 致し、秋頃ニ相成上逆強、喜笑致し、静

[所を] 21a] [好み]、漸々霜月頃ニ相成、喜笑

致し候儀は相止ミ候得共、兎角小腹疼痛、前陰江  
徹痛仕、勞動候得は別而痛楚仕候。痛寛ミ候節は  
気分も宜御坐候。當時は上逆も薄く御坐候。當三

月より紅潮来り候得共、誠ニ細少ニ而来り候と申  
斗之儀ニ御坐候。食事進不申、小便清利頻数の方  
ニ而、大便平常より結し候方ニ御坐候。當正月頃  
兩三度喜笑致し候後は相止ミ申候。産乳老度も無  
之候。 21b]

一 桂枝茯苓丸料 加牛膝大黃

兼用鶏殻散

井岡正伯

一 右婦美儀、自若。卯七月八日 実庵記  
同断。卯八月八日 弁庵記

右ふみ儀、諸症自若ニ御坐候。

卯十月八日 雲禎識 6a] (白紙) 6b]

(白紙) 7a] (白紙) 7b]

⑩卯七月十八日 百六十

武州葛飾郡猿ヶ又村 名主見習由太郎支配

百姓七三郎妻 すみ 五十二

診視 龍仙院 玄琢 安長 理庵

巳六月十三日 小島春沂へ 番外 雲禎識

一昨年十一月頃より気分鬱塞、動作に懶く御坐候  
處、昨年九月、周身発黄仕候ニ付、灸治致シ、十  
一月頃発黄快相成候處、前症自若ニ而、兎角[気]

分鬱塞、不出来之節は静所ヲ好、酬應ニ 22a] [懶

く] 逆上耳鳴、時々頭痛、夜臥快寝仕兼、心下より  
左之脇肋江掛疼痛、又は肩背江掛ケ疼痛、或は  
腰股江掛牽引仕、折々左之臍上より心下江衝逆仕  
候儀御坐候。月経從來不調之方ニ御坐候處、昨年  
より絶止仕候。食餌可也被下候。大便四五日一行  
鞭通、小便自可。○廿五六歳之節に産仕、其後産  
乳無之候。

一 理氣平肝散 兼用三黃丸

卯九月三日より加牡蠣 吉田榮全 22b]

右寿美儀、自若。卯八月八日 宗春志  
右春み儀、少々快和之処、動悸強候ニ付、加牡蠣  
ニ致し申候。卯九月三日 道玄記

右澄儀、臍下より心下へ衝逆疼痛仕候ニ付、轉方。

堅中湯 加吳茱萸牡蠣 卯閏九月三日 道玄記

右すみ儀，轉方後大快。 卯十月八日 弁庵志  
右寿美儀，時折心下支障，兎角胸膈痞閉，肩背強  
逆上，不大便等有之候ニ付，轉方。

理氣平肝散 加大黃

卯十一月八日 玄亮志 23a]

右寿美儀，自若之内逆上ハ少々快方。

卯十二月三日 実庵記

右すみ儀，前症先同様之内，此節食餌胸中ニなづ  
み不爽ニ而，殊ニ寄翻吐も可致様子ニ付，轉方。

俊哲老談。

瀉心順氣劑 辰二月八日 玄亮志  
右寿美儀，諸症大ニ快方。 辰三月八日 理庵記  
右寿美儀，十日程以前より兎角心下衝逆強，痛有  
之候ニ付，轉方。 俊哲老談。

桂苓甘棗湯 辰五月三日 玄亮志 23b]

⑪ (前缺) <卯九月以前受診，成人女性 つる>  
産乳無之，經事不調ニ御坐候処，只今ハ絶止仕候。  
大便殊之外結し申候。小水ハ頻數ニ御坐候。

一 防風通聖散 兼用結毒紫金丹 外治ハダリ膏

栗崎道有 8a]

右津留儀，諸症自若ニ御座候。

九月三日 宗春志

右津留儀，自若之内，快和之方。

卯閏九月八日 道玄記 8b]

(白紙) 9a] (白紙) 9b]

⑫卯九月三日 百六

深川富川町 家主和助店 三五郎 五十五

診訂 俊哲 介弁庵

巳六月廿三日 久志本左近へ 番外 雲禎識  
二十ヶ年以前より腹痛ニ而難儀仕候。其頃ハ食事  
仕候与凌能覚申候。十ヶ年已前，傷寒相患，三ヶ  
月余ニ而全快仕候。二ヶ年程過候而，前症再發，  
日々心下へ支痛仕，心下より脊椎へ徹疼申候。時々

酸水一二口ツ、吐申候。一昨年より食事味有之被  
下候得共，食後心下へ15a] 支撐仕，息苦敷相成  
候ニ付，探吐仕候得者，心中快然仕候。兎角心下  
より脊椎へ徹疼痛難儀仕候。大便一日一行硬通，  
小便自可。是迄瘡患無之候。唯今迄種々治療仕候  
得共，寸驗無之。心中動悸仕候。

一 外台茯苓飲 加呉茱萸牡蠣 村上良三

右三五郎儀，少々快和。

卯閏九月八日 弁庵記 15b]

右三五郎儀，心下痞滿，度々酸苦水も吐候ニ付，  
轉方。

半夏瀉心湯 加呉茱萸牡蠣

卯閏九月廿八日 理庵記

右三五郎儀，諸症逐々快和。

卯十月八日 雲禎識

右三五郎儀，心下より脊椎江徹痛，腹中攣急仕候  
由申出候ニ付，

堅中湯 加呉茱萸 差置，当人罷出候所，申遣候。

卯十月廿九日 理庵記

右三五郎儀，胸膈痞悶，心下支痛，時ニ寄脊椎江  
徹候ニ付，轉方。 俊哲老談。

甘草瀉心湯 卯十一月八日 玄亮志

右三五郎儀，兎角自若。

辰二月八日 宗春志 16a]

右三五郎儀，諸症自若。 辰三月八日 雲禎識  
右三五郎儀，前症兎角自若之処，此節頭髮中より  
頸項之邊小瘡相發，右小瘡發候方氣分宜，胸膈中  
痛も少々罷キ候様覺候ニ付，当今轉方出来申候。

浮萍散 加反鼻 安良老談。

辰三月八日 玄亮志

右三五郎儀，此節前症不出来ニ嘔吐有之，胸腹攣  
痛，背江徹痛候ニ付，轉方。 俊哲老談。

四逆散 兼用安中散 辰五月三日 玄亮志 16b]

右三五郎儀，諸症快方。 辰六月八日 理庵記  
右三五郎，自若。 辰七月八日 雲禎識

右三五郎，胸腹痛快候得とも，未タ心下徹痛，嘔  
氣も有之候ニ付，其促差置申候。頭上小瘡同様ニ

御坐候。 辰八月八日 道玄記  
右三五郎儀，胸腹攣痛等ハ先快方。心下痞満，  
時々酸苦水を吐出候ニ付，

生姜瀉心湯 加呉茱萸 辰十月三日 理庵記  
右三五郎，先日轉方已後，兎角自若ニ而難儀致候  
ニ付，轉方。

安中散 兼用見合申候。

辰十月廿八日 雲禎識 17a]

右三五郎，自若。 辰十一月八日 雲禎識  
右三五郎，余程快復之方ニ御座候。

辰十二月三日 道玄識  
右三五郎儀，惣而快候処，当春来又々不出来，昨  
今胸背痛候ニ付，轉方。俊哲老診。

解急蜀椒湯 巳二月八日 玄亮誌  
右三五郎，自若ニ付，轉方。

蟠葱散 俊哲老診 巳三月八日 道玄記  
右三五郎儀，痛大ニ快，兎角酸苦水吐出，臍傍跳  
動 17b] (以下缺)

⑬卯九月十三日 百式拾壹  
神田小泉町 家主三五郎店 松次郎 式拾七  
診視 安長 俊哲 玄亮

辰二月十三日 懈怠ニ付除之。 理庵識  
当七月中旬より胸膈痞閉，心下支痛，腹中雷鳴，  
噫氣出，去月より食物或酸水吐出仕，劇節ハ寒熱

頭痛苦瀧仕候。飲餌可也被下候得は，別而心胸不  
爽ニ相成 20a] 候ニ付，先扣被下候。大便兩日壹  
行硬通，小水自可。○四年以前，頭瘡相発，稀汁  
出，壹ヶ月程ニ而愈申候。其他瘡患無之。

一 生姜瀉心湯 加呉茱萸牡蠣 土岐二安 20b]

(以下缺)

⑭卯九月十三日 三十七  
柳原岩井町上納地 家主利助店 吉五郎 三十三  
診視 安良 俊哲 介宗禎

辰三月十八日 懈怠ニ付除。 雲禎識  
生下壯実之方御坐候處，去年二月頃より齒齦緊急  
仕候而，口を開候事出来不申候。折々発候而，又  
候当月八日より発申候。発候節ハ氣分鬱滞，微ニ  
発熱仕候。逆上等無之，兩三日已前 26a] 少々頭

痛仕候而，昨今ハ相止申候。食味平素ニ相替候儀  
無御座候得共，右故喫兼申候。二便自可。十ヶ年  
以前，湿疥夥相発申候事御座候。其他瘡患無之。

一 抑肝散 加芍薬 宮崎立敬  
右吉五郎儀，牙関緊急不出来，且齒齦より咽喉江  
懸ケ腫候ニ付，先達中手充致被申候旨，受持より  
申出，依之轉方。 俊哲老談。 26b] (以下缺)